

大学院
(男女共学)

大 学

短期大学部

高等部

中学部

小学部
(男女共学)

幼稚部
(認定こども園・男女共学)



Contents

ごあいさつ 2～4

客員教授のご紹介／社会起業研究科のご紹介 4

イベント紹介 5

〈特集〉緊急事態宣言期間 6・7

「みんなのおうち時間と先生たちの取り組み」

学園紹介 8

学園各部報告 9～11

同窓会だより 11

マーガレット募金 12



見つめる人になる。見つける人になる。



相模女子大学

CAMPUS NEWS

総合学園としての 約束

学校法人 相模女子大学
理事長
佐々木 勝洋



新型コロナウイルスの感染拡大により生活に様々な形で影響を被っておられます皆様、心よりお見舞い申し上げます。学園は感染症の予防対策に努め、教育活動を再開いたしました。学園に児童・生徒の元気な声が戻ってきたことを大変嬉しく思います。

学園は本年、創立120周年を迎えます。この記念すべき年までに、学園の未来を決める教育構想「Sagami Vision 2020」を実現すると、学内外に広く宣言し、教員と職員が力を合わせ懸命に取り組んできました。大学は、夢をかなえるセンターの設置、学修支援体制の再編、専門職大学院社会起業研究科の開設等々、大きな成果を上げました。中学部・高等部は、引き続き、生徒の学力向上を目指す教育改革を着実に進めております。小学部は、プログラミング教育や英語教育が本年度から必修化されることを見据え、学外からも注目される先駆的な取り組みを行ってきました。幼稚部は、この間、認定こども園として生まれ変わり、地域の待機児童問題の解消に大きく貢献しております。

さて、私立の総合学園としては、間もなく少子化という深刻な社会問題に向き合わなければなりません。まず、少子化対策としては、教育目的の違いを意識しつつも、他にない魅力ある教育の実現を目指して、小学部をはじめ、中学部と高等部も、教育の目的と目標、入学定員、カリキュラムと教育組織等の教育の基本構造を改革することで乗り切つて行きます。次に重要な対策は、学園の教育力の向上です。このために、学園連携推進委員会を中心に、学びのネットワークを構築して、教員と職員との協働、保護者、卒業生、地域の方々の協力による体系的で多種多様な教育を行うことが必要です。

最後に、わが学園ほどの美しいキャンパスは他にありません。それが情緒を細やかで豊かなものにすれば学修の効果をまた高めることになりすし、どこにでもある学生生活ではない本学園ならではのキャンパスライフを楽しめるようにしたいと思います。現在と未来の厳しい教育環境と経営環境を教職員が一丸となつて、また、保護者、卒業生、地域の方々のご協力を得て教育改革に邁進したいと思います。どうぞよろしく願ひいたします。

「泥縄」と「丸投げ」 ——「コロナ禍」のなかで

相模女子大学・相模女子大学短期大学部
学長
風間 誠史



「コロナ禍」のはじまりは、卒業式でした。3月13日に予定していた卒業式を急遽中止とし、それでも、卒業生への学位記授与は行いたいと考え、当日、今でいう分散登校で学科ごとに卒業証書を学生に手渡し、いわゆる「総代」をはじめ、卒業式で壇上にあがるはずだった各代表学生、表彰対象者には、学内でささやかな「式」を行いました。それもしかし賛否両論のなか、何が正しいやり方なのかかわからないままに実施したわけです。

その後、新年度へ向けて事態は日々悪い方へ進み、入学式は言わずもがな、ある意味「式」以上に重要な新入生オリエンテーションも中止し、すべて郵送資料で代替することになりました。新入生全員が、高校までとは大きく異なる大学の授業の仕組みを理解し、web登録を完了しなければ、新年度の授業がスタートできないわけで、これがまずは乗り越えなければならぬ課題でした。それでも、教職員の尽力と学生たちのがんばりで何とか履修登録が完了し、授業は5月7日からオンラインで開始されました。すべての授業をオンラインで行うという、まったく想定外の状況で、授業をやりながら学生の受講環境を確認し、必要な対応を考え実施するという「泥縄」式で、しかしそれしかやりようがなかったのです。

大学は教育つまりは授業の実施に全力を注がなければならないし、授業方法が変わっても授業の質を決して落としてはいけない。一方、大学の授業は多岐にわたり、内容も多様で、一律に管理することはできません。結果的に、各教員に、この状況下で授業の質を下げない工夫と努力をお願いすることしかできませんでした。そして学生にも、ともに授業を作り上げていこうと呼びかけることしか。「丸投げ」です。そのことに不満や批判はあると思いますが、私はそれがもつとも適切な対処の方法だったと考えます。

ホームページに「授業について」というメッセージを出し、デューイの言葉を引きましたが、「私の教育信条」という著作の中の次の一文が典拠です。

教育は経験の継続的な改造であり、教育の過程と目標はひとつのおなじ事柄である。今、教職員も学生も文字通り「経験の改造」という「教育の過程」のただなかにはいます。それはむしろ本当の「教育」への好機なのだと、言い訳でも聞き直りでもなく、感じているところです。

2020年度を 迎えて

中学部・高等部
校長
原野 聡美



新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のための臨時休業（3月2日から5月31日まで）の最中、中学部・高等部は4月6日（月）と7日（火）に、始業式と入学式をそれぞれ行いました。「3密」回避のため、各教室での実施となりました。中学部61名（内、内部進学者13名）、高等部308名（同67名）の新生を迎え、全校生徒数は中学部213名（2年生82名、3年生70名）、高等部922名（2年生297名、3年生317名）で総計1,135名となります。

今年度は「Sagami Vision 2020」の完成年度に当たります。中学部・高等部はこの間、教育目標を「研鑽力・発想力・協働力の育成」と一新し（2017年度）、昨年度には本校舎のWi-Fi環境が整ったことから（第2・第3校舎は今年度中に完成予定）、今年度の入学生からBYOD（Bring Your Own Device）型の「1人1台端末」を実現しています。生徒は自身のノートPCあるいはタブレット端末を常時携帯し、授業をはじめとする学校生活のあらゆる場面で活用します。

さらに、教育改革のいっそうの推進に向けて、校務分掌を「学修支援部」「生活支援部」「キャリア支援部」「入試広報部」そして「教育改革推進室」の5分掌に改編しました。「教科を教える従来の立場から、子どもの学ぶ意欲を高め、支える伴走者へ！」——これからの時代に求められる教師像を踏まえ、支援の2文字に私たちの教育観・人間観を込めました。そして教育改革推進室が文字通り推進役となり、まず教員の行動改革から取り組みます。キーワードは「しなやかマインドセット」——「成功とは自分の最善を尽くすこと。他人に勝つことではない。・失敗を嘆かない。失敗こそ自分を育てるチャンス。・努力こそ成功のカギ。——これからの社会には普遍的な「正解」はなく、自分だけの「正解」を探すことが求められます。その原動力となる「しなやかマインドセット」を子どもたちの心の中に育むための仕掛けをたくさん用意して、生徒一人一人にしっかりと寄り添い、支援できる教職員集団をめざします。



2020年度 小学部のビジョン

小学部
校長
川原田 康文



小学部は、新型コロナウイルスの影響で5月末まで休校だったため、入学式を6月6日に行いました。70名（男子35名・女子35名）の1年生と4名の転入生を迎え、小学部の全児童は合計44名（男子170名・女子277名）で新年度をスタートしました。今年度は「Sagami Vision 2020」の最終年度です。小学部では、昨年も取り組んでいた「Sagami Vision 2020」の目標達成に向けて掲げられた学園のスローガンのもと、目指す子ども像として、「自分からできる子」と設定をしています。

学校生活の中にある多彩な教育プログラムは、毎日の学習に格付状に組み込まれ、それぞれの学習が相乗的に高まり合います。これまで行ってきたコミュニケーションスキルと生きる力を育む「つなぐ手」の学習・各学年で行われている体験学習や宿泊学習・学校行事を縦軸とし、新たに組み始めたLEGOを使ったプログラミングのSTEAM学習・思考ツールとしてのICT機器の活用・海外にある姉妹校との交流・使える英語をめざしたオンライン英会話・表現力を豊かにするイングリッシュスピーチコンテストを横軸として組み込み、子どもたちをさらに大きく成長させていきます。そして、教師のきめ細やかで優れた指導力に合わせ、今年からコーチングのスキルを取り入れ、子どもたちの学ぶ意欲と力を支える環境をさらに強化し、学び続ける学習者（小さなエンジンを持った人材）となるように育てます。

これまでの小学部の伝統を活かし、常に子どもたちの未来を考え、教職員が「One Team」となり、毎日の積み重ねを大切にしながら愛情と情熱を持って教育活動に邁進してまいります。今年度も保護者の皆様の暖かいご支援・ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

さて、ご挨拶が遅れましたが、私儀、この4月1日付で、前任の竹下昌之校長の後任として、小学部の校長に就任いたしました。

1985（昭和60年）年4月から中学校で教員として16年間、その後、教育行政や教員養成にかかわる機会を得たことで、教育を様々な角度から考えることができてきたと思います。またこれまで取り組んできたロボット教育とコーチングの研究は、これからの子どもたちの成長を未来につなげる教育や手法と考えています。ご家庭との連携を図りながら、教職員とともに信頼される学校づくりに努めてまいります。よろしくお願い申し上げます。

新年度を迎えて

認定ことも園幼稚園
園長
齋藤 正典



幼稚園部の2020年度は、78名の新入園児と5名の新任専任職員を迎えて始まりました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症予防対応で、1号認定(幼稚園部分)は完全休園、2・3号認定(保育所部分)は、保護者の職種を絞った開園となり、入園式も内容を大幅に簡略化(2・3号認定入園式)または中止(1号認定入園式)となるなど、例年とは全く様相の異なる新学期となりました。そして、通園・通勤してくる園児や職員の安全面に最大限に配慮しながら、運営を続けてきました。この間、長期間に亘って幼稚園部に通園してこない園児への対応として、5月のゴールデンウィーク明けより、クラス担任が家庭で園児と保護者が一緒に楽しむことのできるオリジナル工作キットを子どもたちに郵送したり(2回)、専任教員が趣向を凝らして作成した動画をYouTubeに公開して、家庭で幼稚園部の雰囲気を楽しんでもらえるようにするなど、様々な工夫を凝らしていきました。YouTubeの動画配信では、保護者のみの限定公開にもかかわらず、一か月間の延べ視聴回数が12,000(13,000回)に達するなど、これらの取り組みは、園児や保護者の皆様にとっても好評であったように思います。6月からは1号認定(幼稚園部分)も段階的に開園していき、7月からは通常開園となりました。しかし、当面は、子どもたちが一か所に集まる時間(朝の会やクラス活動など)をなるべく作らないようにするなど、通常とは異なる教育・保育を行っていく予定です。



今年度は、「Sagami Vision 2020」の最終年度です。幼稚園部独自の教育カリキュラムである「幼稚園つなぐ手」による、子どもの主体性・自発性に基づく教育・保育の深化を図っていくとともに、インクルーシブ教育、ICT教育、アトリエリアを用いた表現教育、食育活動など特色ある質の高い教育・保育を展開することによって、「Sagami Vision 2020」に示される幼稚園の中期目標の達成に向けて教職員同精進してまいります。また、新型コロナウイルス感染症が収束したわけではないことから、園児及び職員の安全に最大限配慮していきますながら、幼稚園部の運営を行ってまいります。今年度も、幼稚園部をどうかよろしくお願いいたします。

客員教授のご紹介

本学では、各界の第一線で活躍される方を客員教授としてお招きしています。授業・講演会を実施し、多くの学生や一般の方々が受講しています。



加藤 芳夫

クリエイティブディレクター。サントリーの飲料「なっちゃん」、「C.C. レモン」、「ボス」、「天然水」、「デカピタC」、「伊右衛門」などの商品化、デザインを担当。(公社)日本パッケージデザイン協会元理事長、現在専務理事。

社会起業研究科のご紹介

2020年4月に、本学では専門職大学院として、社会起業研究科を開設しました。2年間の修士課程で、男女共学です。社会起業のためのMBAコースは日本初です。実務経験豊富な教員をそろえ、社会的課題をビジネスで解決する実践的なノウハウが学べます。

学費は国立大学と同等で、平日夜間と土曜日に開講します。入試では「事業構想書」と面接で合否を決定し、修士論文の代わりに「事業計画書」をまとめて修了するのが本研究科の特徴です。

第1期生として、学部を卒業したばかりの方から既に起業している方まで、性別・年齢も多様な24名が入学しました。

大学院特任教授紹介



大学院特任教授 白河 桃子

白河桃子大学院特任教授は、「婚活」という言葉を作ったジャーナリストです。専門分野は働き方改革、ダイバーシティ経営などで、内閣府や内閣官房の委員を歴任しています。本研究科では演習を担当します。



大学院特任教授 小林 裕和

小林裕和大学院特任教授は、大手旅行会社で経営企画、社内起業を担当し、欧州・アジア等での国際ビジネス経験も豊富です。専門分野は持続可能な観光で、本研究科では「地域活性化論」や演習を担当します。

大学院 大学 短期大学部

●オープンキャンパス (HPにて要予約)

- ・ 8月2日(日) 10時～16時
- ・ 8月23日(日) 10時～15時
- ・ 9月20日(日) 10時～15時
- ・ 11月28日(土) 12時～15時
- ・ 3月20日(土・祝) 12時～16時

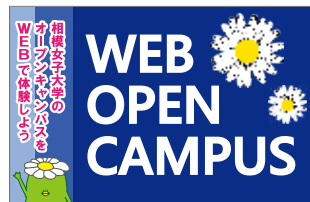
模擬授業 / 学科説明 / 各種個別相談 / 入試制度説明 / 総合型選抜対策セミナー / 面接対策セミナー & 模擬面接 / キャンパスツアー / 過去入試問題分析など

※開催日により上記内容は異なります。また、日程・実施方法、事前予約の有無等が変更になる場合があります。事前にホームページで最新情報をご確認ください。

●WEBオープンキャンパス

詳しくはこちら

自宅にいながら大学・短期大学部の学びの内容を理解できるWEBオープンキャンパスを開設しています。



●入試説明会 (HPにて要予約)

- ・ 10月10日(土) 14時～16時
- ・ 11月3日(火・祝) 10時～15時
- ・ 11月4日(水) 10時～15時
- ・ 12月12日(土) 14時～16時

大学・短期大学部の入試に関する説明のほか、個別相談、施設見学などができるイベントです。11月3日、4日は個別相談のみ実施します。

※日程・実施方法、事前予約の有無等が変更になる場合があります。事前にホームページで最新情報をご確認ください。

【お問合せ】 相模女子大学・相模女子大学短期大学部入試課

●詳細はホームページをご覧ください。 www.sagami-wu.ac.jp

フリーダイヤル:0120-816-332 TEL:042-749-5533 FAX:042-742-1732 (平日9時～17時、土曜日9時～12時30分)

※9月中の日曜日(9時～17時)は、見学可能です。 Mail:kouhou@isc.sagami-wu.ac.jp

高等部

●学校説明会・校舎見学 (HPにて要予約)

- ・ 10月24日(土) 14時～15時30分
- ・ 11月28日(土) 14時～15時30分
- ・ 12月5日(土) 14時～15時30分

●入試個別相談 (HPにて要予約)

- ・ 12月7日(月) 16時～19時
- ・ 12月8日(火) 16時～19時
- ・ 12月9日(水) 16時～19時

【お問合せ】 相模女子大学高等部

TEL:042-742-1442 FAX:042-742-1441 (平日9時～17時、土曜日9時～12時30分)

Mail:kou@mail2.sagami-wu.ac.jp

中学部

●プチセツ (要予約) 初めてのの方のための説明会

- ・ 9月17日(木) 10時～11時
- ・ 11月12日(木) 10時～11時
- ・ 1月15日(金) 10時～11時

●学校説明会 (要予約)

- ・ 10月3日(土) 9時30分～12時

●過去問解説会 (要予約)

- ・ 11月28日(土) 9時30分～12時

●ナイト説明会 (予約不要) 初めてのの方のための説明会

- ・ 10月15日(木) 19時～20時
- ・ 11月13日(金) 19時～20時
- ・ 12月11日(金) 19時～20時
- ・ 1月15日(金) 19時～20時

会場: 小田急ホテルセンチュリー相模大野8F (相模大野駅ビル内)

【お問合せ】 相模女子大学中学部

TEL:042-742-1442 FAX:042-742-1441 (平日9時～17時、土曜日9時～12時30分)

Mail:chu@mail2.sagami-wu.ac.jp

小学部

●オープンスクール (HPにて要予約)

- ・ 7月23日(土) 9時～12時

授業体験・校長講演・教育活動の説明・入学試験について・個別相談

●学校説明会 (HPにて要予約)

- ・ 7月31日(金) 18時～19時 会場: ボーノ相模大野
- ・ ナイト説明会 校長挨拶・卒業生保護者による学校紹介
- ・ 9月4日(金) 9時20分～12時

公開授業・校長講演・教育活動の説明・入学試験について・個別相談

●公開行事

- ・ English Speech Contest & 合唱発表会 12月3日(木) 10時 会場: 相模女子大学グリーンホール
- ・ 造形展 2月11日(木) 図工作品展示、クラブ発表、探究発表等

【お問合せ】 相模女子大学小学部

TEL:042-742-1444 FAX:042-742-1429

Mail:sho@mail2.sagami-wu.ac.jp

幼稚部

●こんにちは会

- ・ 8月以降(日付未定) 10時～11時

※受付開始9時40分

こんにちは会は、幼稚部を開放し、未就園児と保護者の方にお友達と楽しんでいただく交流の会です。どなたでも参加していただけます。予約・費用は不要です。当日は上履きをご用意ください。(子どもは洗った外靴、保護者はスリッパでも可)。活動しやすい服装でお願いいたします。

●幼稚部入園説明会 9月10日(木) 10時～

- ・ [1号認定] 入園選考会 9月29日(火) 10時～
- ・ [2・3号認定向け] 幼稚部説明会 10月28日(水) 10時～

●未就園児(もも組) 入会説明会 9月18日(金) 10時～

- ・ 入会抽選会・入会申し込み 10月13日(火) 10時～

●公開行事

- ・ 運動会 10月10日(土)
- 雨天順延※車での入構はできません。

【お問合せ】 認定こども園相模女子大学幼稚部

TEL:042-742-1445 FAX:042-742-1431

新型コロナウイルス感染防止のため、4月7日(水)に政府より発出された「緊急事態宣言」。学園各部ではオンラインでの授業が始まるなど、新しいスタイルでの学びの取り組みが実施されました。今回は、緊急事態宣言期間中、みなさんがどのような「うち時間」を過ごしてきたのか、またその裏側で、先生たちはどのような取り組みを行ってきたのか伺いました！

〈特集〉緊急事態宣言期間



休校期間中の子どもたち 楽しかったこと、残念だったこと

<休校期間中に楽しかったこと>

- ・毎日、お母さんのお飯を食べることができて良かった。仕事で忙しいお父さんとふれあう機会が多かった。(6年 平賀さん)
- ・家族でクッキングをした。ケーキ作りが楽しかった。(6年 平塚さん)
- ・毎日、おばあちゃんの家に行き、お庭の手入れをしたことが楽しかった。(3年 齋藤さん)
- ・Google Meetで、普段、あんまりしゃべらない友達と話をした仲良くなった。(5年 申さん)
- ・ママと一緒にのお人形遊び楽しかった。パパが作ってくれたお弁当に野菜炒めや天ぷら、おにぎりが入って、おいしくてよかった。(1年 山下さん)
- ・5才の弟と一緒にプラレールをたくさん楽しんだ。(1年 菊池さん)
- ・ママと一緒に「ウォーリー」をさがせで楽しんだ。(1年 松枝さん)

<休校期間中に残念だったこと>

- ・困ったこと、わからないことがなかなか質問できなかった。(3年 小川さん)
- ・オンライン授業が一人でさびしかった。(3年 渡辺さん)
- ・とても暇で、TVとかもあきてしまった。(5年 小川さん)
- ・なかなか、家だと勉強をやる気にならなくて、宿題がたまって大変だった。(4年 三好さん)
- ・運動ができなくて、運動神経が悪くなった気がする。(4年 奥嶋さん)
- ・友達に会えないこと、遊べないことがつらかった。(4年 八重樫さん)

幼稚園

緊急事態宣言下の幼稚園の様子

副園長：井原静香

新型コロナウイルスの感染状況が拡大し出した3月、1号認定は休園、2・3号認定は登園自粛が開始されました。4月・5月は国の緊急事態宣言発令に伴い、家庭保育の協力を呼びかけながらの自粛保育を行いました。

新型コロナウイルスに対する強い不安を抱きながらも、園内の消毒や換気、手洗い等の衛生面の対応を徹底して行い、保育を進めていきました。

また、登園自粛に伴い幼稚園に通えない子どもも多数いたことから、5月にはクラス担任から各家庭へ製作キットや担任からの手紙の郵送、YouTube動画配信を行いました。

保育者は初めての試みに戸惑いながらも、「子どもたちに喜んでほしい」という一心で郵送や動画撮影を行いました。保護者から感謝や喜びの声もたくさんいただき、職員一同大変嬉しく思っています。

まだまだ新型コロナウイルスに関して予断を許さない状況ですが、今後も「子どもたちのために」という気持ちを強く持ち、かけがえのない子どもたちの未来のために職員一丸となって保育に取り組んでいきたいと思っています。



＜Google Meetを利用したホームルームや教科の学習はどうでしたか？＞

小山さん：実際には会っていない友達でも、どんな人なのか知ることができて楽しかったです。

巽さん：初めてのパソコン操作と初めて話す友達の相手に、とても緊張しました。きっと本当の自分を出せていない人も多いのではないかな、実際に顔を合わせることが楽しみにになりました。オンライン上で学習の相談もできて、不安に感じていることも解消できました。

三人に話をうかがい、「実際に人と会って話をすることがどんなにワクワク・ドキドキすること」なのか、また学習面では「友達や先生と直接やり取りしながら勉強を教えてもらうことでどんなに興味とやる気が湧くもの」なのか、学校に登校できるといふことに期待を膨らませている気持ちがよく伝わりました。さあ、高校生活のスタートです!!

高等部生徒：2年特進・井上さん

休校期間中は配信された課題以外にも英単語の勉強や1年次の内容で忘れてしまったり、理解が浅い部分の復習をしていました。ただ、課題にかかる時間が思いのほかに多くなってしまったため、自分の勉強自体は思うように進めることができませんでした。しかし、この休校期間を経て、まずは自分で考えて、自力で解答する力を身につけることができました。その一方でその場で質問できないことに歯がゆさを覚えたり、自分のやる気次第でどうにもなるため、だらけてしまうこともありました。そんなときは好きなバンドのDVDを視聴したり、友達と連絡を取るなどして気分転換をしていました。学校再開後はわからなかったところを質問するなどして自分の学びを深めたいと思います。(高等部教諭：中村)

With コロナ「その時先生は」

高等部教諭：鈴木夏子

高3オンライン授業が始まる10分前、ドキドキしてPCの前に待機。生徒が一人ひとり入ってくる。画面上で、久しぶりに会うメンバーに「久しぶり!」「元気?」と声をかけていく。久しぶりに聞く3年生の声。長年教師を務めて、オンライン授業をする日があるなんて考えもしなかった。けれど子供たちとの交流はとても楽しくワクワクする。

「芸術」という教科の特性上音楽の力で自宅学習中の生徒達の励みや力になるのではと思いオンライン授業を始めてみた。

実際の授業にはかなわないけれど、この形での授業も様々な可能性があると感じる。この先、天候不良や災害等でも授業ができたり、ケガ病気で欠席の生徒へ録画した授業を送ることもできる。

高2の授業では、松田聖子さんの「瑠璃色の地球」を歌う。「先生が高校生の時の曲だから両親は知っていると思うよ」と言う画面からお母さんの笑い声が聞こえる!お家の方も一緒に参加!とてもうれしい。

高1の授業は、実際に顔を合わせたことのない生徒達である。PCの前に緊張した面持ちで制服を着て待っている。この授業ではヴァイオリンの名称や奏法、様々な弦楽の名曲を鑑賞した。昨日から実際の授業が始まったが、実際1年生に会ってみると5回のオンライン授業を経て、初めて会ったような感じがしないし、子供たちもリラックスしている気がする。

在宅期間、全国500人の音楽教諭が「音楽の課題又はオンライン授業」を、

について意見やアイデアを交換するサイトがあり、このオンライン上のSNSを通して様々な悩みや授業法を討論したのもよい経験であった。この「オンライン授業」を、様々な形でこれからの授業でも生かしていきたい。同時に一日でも早く生徒たちの歌声を聞きたいと願っている。

中学部教諭：安田耕三

3月から全国的に休校となり、各学校はその対応に追われました。本校も例外ではありません。突然切り離された仲間や先生とのつながり。休校期間中に私たち教員は生徒のために何ができるのかを

考え、できることは何でもやりました。生徒との「つながり」を最優先し、毎日のオンライン学年朝学活、オンライン授業、オンライン学級会を実施してきました。私たちもICTについては勉強中で戸惑い、不安を抱えながらやっていたのが正直なところです。うまくいかないこともありましたが、休校期間中も生徒とつながれたことを嬉しく思っています。まだまだwithコロナの生活は続きますが、これからも生徒が充実した学校生活が送れるよう支援していきます。



緊急事態宣言期間 「みんなのおうち時間と先生たちの取り組み」

大学

大学ではオンラインでの授業から始まった今年度。先輩学生はどのように過ごしているのでしょうか？オープンキャンパス学生スタッフに、気になることを質問しました！

学芸学部子ども教育学科 4 年生

自宅でも PC やスマートフォンを使って授業を受けています。本来なら学校に行く通学時間も自宅でもオンライン授業を受けられることで、教員採用試験の勉強の時間にあてることができ、有効に活用しています。一方、大学で直接先生方に質問したり、図書館に行ったりできないため、不自由もあります。そのため、自分なりに考え、工夫して時間を無駄にしないように過ごすように努めています。

人間社会学部人間心理学科 4 年生

Web での授業になり、対面式での授業ではない分、課題が多くなったように感じます。しかし、こうして授業を受けることができる環境があるということに感謝をしています。その反面、友人とはなかなか会えないため寂しいですが、この機会なのでオンライン飲み会を友人と開催しました！

栄養科学部管理栄養学科 4 年生

自宅のパソコンから資料を見たり小テストを受けたり、Zoom で授業を受け、勉強しています。自分で時間管理を行い、時間割通りのスケジュールで勉強できるようにしています。自宅にいる時間が増えたので、お花を育てたりピザやシナモンロールを作ったり、趣味を楽しむ時間が増えました！

小学部

「学びを止めない」小学部の取り組み

副校長：澄井俊哉

相模女子大学小学部の休校は、2 月 28 日から始まりました。学期末からの休校ということで復習を兼ねたプリントを急遽用意。自宅学習で取り組むことができるように、3 月 9 日から 3 日間の期間を設け、その間に車での来校も許可する形で、学校にプリントを取りに来てもらうようにしました。

その後、休校の延長が決まると、「子どもたちの学びを止めない」ようにするため、4 月 1 日にオンライン授業を開始することを決定。教員研修を実施し、配信の準備に入りました。

ロイロノートやパワーポイントなどのアプリケーションを利用して、授業を組み立て、動画として編集して制作しました。そして、そのデータを Google Drive 上に置いて、各家庭からそのデータにアクセスして、授業を受けられる形をとりました。

配信授業は、1 コンテンツ 10 分程度。配信数は、国語・算数・社会・理科が週に 2 本、その他の教科は週に 1 本の配信を原則にしました。

また、子どもたちにとっては、進級して新しいクラスメイトや新しい担任の先生となっているのですから、この休校期間中にも、顔を合わせた交流の時間を設けていこうということになりました。そこで、配信授業のほかに、Google Meet を利用したコミュニケーションの時間をゴールデンウィーク中にスタートしました。その後の休校期間中も、週 2 回、それぞれ 40 分ごとのクラスのコミュニケーションの時間を Google Meet を使って設定し、実施しました。

動画作成の経験などなかった先生方ですが、配信された授業の数は、この 2 ヶ月間で各学年とも 100 本を優に超える本数となり、「子どもたちの学びを止めない」活動になったことは間違いありません。

中学部・高等部 休校期間中の生徒の時間・先生の時間

生徒へインタビュー「それぞれの時間」

中学部教諭：松本あおい

休校期間中、中学部 3 年生は自立に向けたトレーニングとして、時間割を組まずに、課題の配信等による学習をしてきました。（中には、昼夜逆転してしまった生徒もいました・・・）

オンラインでの個人面談や学活を行っており、なかでも、外出自粛によるストレスとうまく付き合い、個々のリズムで生き生きと過ごしていた生徒 2 名にインタビューをしました。

中学部生徒：3 年・石井さん

学習や課題に関しては、学年で設定していた「1 日 4 コマ分」は時間を確保し、取り組むことができました。クラスルームで配信される課題は「締め切り日にやる！」がルーティン化していて、数学などで難しい問題が出ると理解するのに時間がかかったり、教科書や問題集に戻ったりと、締め切りギリギリになってしまい焦ることもしばしばありました。朝起きたら気が済むまでゲームをして頭と体を起こし、午後や夕方、夜に 4 時間以上勉強していました。配信された課題がお知らせでメール配信されるのですが、取り組み終わった課題は、そのお知らせメールを開封し、取り組み終わっていない課題は「未開封」にすることで、Google カレンダーとメールとで 2 重に管理していました。

1 日に決めた 4 時間の学習のうち、課題が終わって余った時間は自習にまわすこともできました。自由課題の配信もあり、未開封メールが 30 ほど溜まってしまったときはどうしようかと思いましたが、締め切りや優先順位を考えて取り組みました。

また、空いた時間に体を動かしたり、パトンの練習をしたりと充実していました。部活のメンバーと一緒に、オンラインで一緒に練習をしたときは、とても楽しかったです。

中学部生徒：3 年・白井さん

私は、通常の学校がある日と同じリズムで生活することを心がけていました。午前中に課題学習を行い、午後は課題でわからなかったところを調べたり、自習をしたり、家事を手伝ったり、リラックスタイムで好きなことをしたり...と、自分の中では「午前授業の日」のような形でリズムを保って過ごしました。午前中の学習がはかどるように、机の下すぐに取り出せるところに教科書や参考書、ノート等勉強で使うものをすべて置いて、「学習するエリア」を整えたのもよかったです。課題をやりながら、途中で辞書を取りに...プリントを探してゴソゴソ...などと気が散ってしまうのを避けるためです。

Google Classroom を朝と夜の 2 回確認するのですが、朝の確認はその日の計画の確認も兼ねていて、（課題をやる順番を決めたり、時間がかかりそうな課題は隙間時間も使うように計画し、）夜は課題のやり忘れがないかの確認としました。

夜は、夕食や入浴等やるべきものがすべて終わったら、ゲームをしたり、小説を読んだりして 1 日の疲れを癒す時間もとることができました。また、家族が家でそろうときなどは、私が全員の朝食を作ることも習慣になっていました。散歩の代わりに自転車に乗ったり、オンライン体育の授業に積極的に参加したりと、体を動かすよう心掛けていましたが、運動不足は否めません。今現在も、一石二鳥作戦で運動不足の解消と人の密集を避けるために、自転車で通学しています。

高等部教諭：岡崎忍

高等部生徒：1 年進学・小山さん／緒方さん／巽さん

高等部 1 年生は、一人一台端末所持ということもあり、各教科の課題が Google Classroom を通して伝えられ、各家庭で学習をする環境が 4 月当初から実現できました。また、どの学級でも Google Meet を利用したホームルームを実施して、4 月 6 日のたった一日しか会えていない友達や、担任の話を耳を傾けました。約 2 か月間の休校期間を生徒の皆さんがどのように過ごしたのか、インタビューしました。



＜休校期間をどんなふうに過ごしましたか？＞

▲ 緒方さん：時間の使い方を工夫して過ごしました。運動部に入部するので、体力を落としてはいけないと筋トレを続けるようにしました。休校中の約 2 か月間は「自分を鍛える」の時間だったように感じます。

小山さん：最初は不安でいっぱいでしたが、自分でルーティンを決め、適度に運動もして過ごしました。お菓子作りも楽しむことができました。ステイホームのこの期間は新しい高校生活に向けて「充実した」期間だったように思います。

巽さん：高校生活のスタートを自分のペースで始められたのがよかったです。学校再開が見えてくると、勉強への不安が増してきました。休校期間中は「自分を見つめ直す」期間でした。

学園紹介

キャンパス紹介

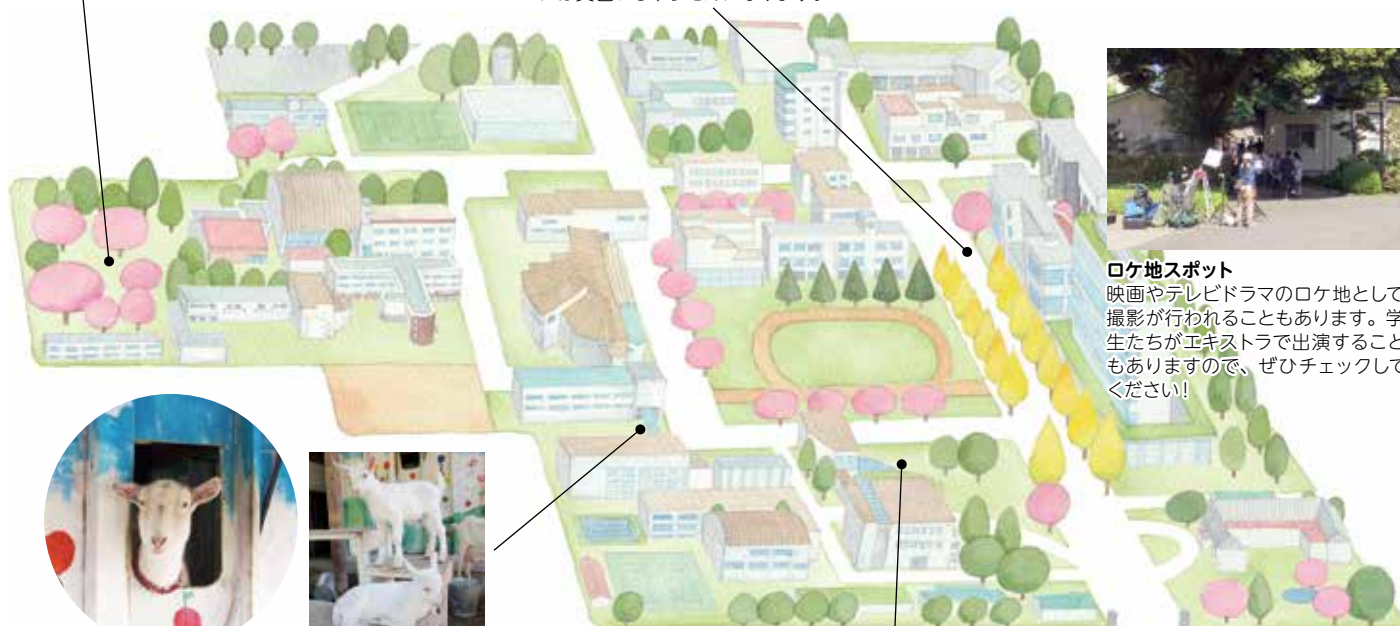
相模女子大学は、約17万3千平方メートルの広大で緑豊かなキャンパスに、幼稚園から大学院までがそろいます。自慢のキャンパスを改めてご紹介します！



自慢の桜
「百年桜」をはじめ、多くの桜の名所があります。来年はみんなで桜を楽しめることを願っています。



シンボルのイチョウ並木
キャンパスのシンボルとなる正門から続くイチョウ並木は、夏は緑のトンネルに、秋には黄色いじゅうたんになります。



ロケ地スポット
映画やテレビドラマのロケ地として撮影が行われることもあります。学生たちがエキストラで出演することもありますので、ぜひチェックしてください！



みんなのアイドル「パニラ」
小学部で飼育されているヤギのパニラ。パニラは2016年4月30日に「アイス」「クリーム」の2匹のオスを出産しました。生まれて4ヶ月後、パニラの故郷であり、お父さんがいる望月牧場に帰りました。



かわいいカルガモ
毎年、学園のビオトープにカルガモが訪れます。児童や生徒に見守られ、子育てをしています。

相模女子大学学園キャラクターのご紹介 さがっば・ジョー

プロフィール

【名前】 さがっば・ジョー (joe sagappa)

【性格】 とても温厚で人懐っこい

【誕生日】 10月18日

【友達】 やぎのパニラ(ずっと友達)、カモ

【好きな食べ物】 抹茶

【好きな花】 マーガレット

【棲家】 フランス庭園の池、ビオトープ

【Twitter】 さがっば・ジョー Twitter @SagamiCharacter

ジョーのTwitterもあるよー！

相模女子大学の学園キャラクターの「さがっば・ジョー」。学生から発案されたキャラクターです。

ジョーは、フランス庭園の池に住みついている精で、学園を見守っている伝説の生き物！おしりはぷりぷりで美脚。基本は池のまわりにいますが、敷地内をお散歩するのが日課です。学園キャラクターとして、学園のみんなに知ってもらえたらうれしいです！



学園各部 報告

大学・短期大学部

知的財産研修会が開催されました

教職員を対象にした「知的財産研修会」が2月21日(金)に開かれました。本学では、日々の研究成果から産み出される知的財産によって広く社会に貢献することを目指しており、この研修会は毎年開催されています。

今回は二部構成となり、第一部では羽根木国際特許事務所の土田幸広弁理士を迎え、「大学での研究における知的財産の活用」と題し、事例を交えながら特許取得の効果や価値についてご講義いただきました。

第二部では、本学で特許取得第一号となった発明「表示システム」の研究の道について、発明者の生活デザイン学科・角田千枝准教授、門屋博教授が講演しました。この発明では、衣服をスクリーンとして衣服の内側から映像を投影する技術により、衣服の色や柄などのテクスチャーを簡易に変化させると共に衣装を着た人の動きによる映像の変化を観賞することができるようになります。



色や柄が変化する衣装

ました。今後、アミューズメント衣装や広告媒体としての活用を目指し研究を続けます。

学修支援プログラム「Sagamiチャレンジプログラム」を新設しました

2020年4月、正課外活動における学修支援プログラム「Sagamiチャレンジプログラム」を新設しました。このプログラムは「キャリア形成支援ポリシー」のもと、Plan(目標設定)・Do(実践)・Check(振り返り)・Action(スキルの補強といったPDCAサイクル「マーガレットスタディ」を用いて、夢をかなえるセンターで行う正課外活動の内容をさらに深め、学生の自分らしく生きる力すなわち「教養」を身につけるための学修を支援しています。

これに先立ち、2019年度からは社会で働く・働いた大人による学生のための座談会「キャリア☆カフェ」でPDCAサイクルを強化し、学生による学生のための座談会「ユメカナ★カフェ」では学生自身が身につけた「教養」を発信する場を提供してきました。今年度も引き続き、多様なプログラムによって学生の学びを支援します。



「ユメカナ★カフェ」の様子

緊急事態宣言下における就職支援について

大学4年生及び短期大学部2年生を中心とした2021年3月卒業生の就職活動については、当初は就職協定の廃止と東京オリンピック・パラリンピックの影響で、

早く始まり早く終わるという見方が大勢を占めていました。実際のところ、就職活動は確かに早く始まりましたが、3月頃から新型コロナウイルスの影響により、大手就職サイトが主催する合同企業説明会が次々と中止となり、学生のみなさんにおいてはこれらの就職戦線がどうなるか非常に不安であったことでしょう。

本学ではそのような不安を抱えた学生たちへの支援として、WEBを利用したカウンセラー面談や履歴書・エントリーシートの添削、学科担当者によるメールでの就職相談や電話相談などを行いました。また、現在WEBを活用したセミナーや合同企業説明会を実施中です。これらは今後継続していきたいと考えています。

これからも一層就職支援に力を注ぎ、学生の希望進路実現に向け支援していきたいと思っています。

2019年度卒業証書・学位記および各種表彰の授与が行われました

3月13日(金)、本学学内にて、総代学生への卒業証書・学位記授与および課外活動奨励賞をはじめとする各種表彰が行われました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、大幅に規模を縮小しての実施となりましたが、アカデミックガウンに身を包んだ各学科の代表学生や、華やかな袴・スーツ姿の各賞受賞学生が学長から証書等を授与され、厳かでありながらも温かみのある授与式となりました。



授与式の様子

春学期の授業はオンラインでスタートしました

新型コロナウイルスの感染拡大により、2020年度の春学期授業は5月7日(木)からオンラインでスタートしました。

学生は自宅・自宅で受講可能な時間帯に学習支援システム「manaba」にログインし、それぞれの授業コースに入り、教員がオリジナルで作成した授業プログラムを受講しています。

また、「manaba」による授業と併用する形で、WEB会議システム「Zoom」を活用したネット上での対面授業も始まっており、教員一人一人が、そして学生一人一人が、懸命に新しいスタイルでの授業に取り組んでいます。

オンラインでの授業を進める上で必要な環境が整っていない学生には、ノートパソコンやモバイルルーターの貸出を行うとともに、6月からは学内のパソコンを利用できる環境を整備するなど学生の学びを支援しています。

6月21日(日)オープンキャンパス(オンライン)を開催しました

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、3月及び5月のオープンキャンパスについては中止となりましたが、6月21日(日)にオンラインによるオープンキャンパスを開催しました。450名を超える申し込みがあり、進路に関しての不安を少しでも解消できるように、入試制度説明、学科説明、先輩と話そうの各イベントをライブ配信するとともに、オンライン個別相談を実施しました。

引き続き、個人見学やオンライン相談も受け付けておりますので、本学ホームページよりお申込みください。

中学部・高等部

高等部卒業式

去る3月3日、第70回高等部卒業式が挙行されました。新型コロナウイルス感染症予防の為、卒業生345名と教職員のみで行い、保護者の皆さまには参列をご遠慮いただくことになりました。校歌や卒業生の歌は自粛しましたが、卒業証書授与では全員呼名をして、代表生徒が卒業証書を受け取りました。例年とは異なり、卒業祝賀会も中止で、規模を縮小した形でしたが、思い出に残る素晴らしい卒業式でした。卒業生の皆さんの活躍を、教職員一同願っております。

(川崎)



卒業生 答辞

チーム留学制度

昨年度より、3学期の9週間ニュージーランドにホームステイし、現地の学校に通学するチーム留学制度がスタートしました。1期生として参加した中学部・高等部の2名の学生が、留学生活についての感想を寄せてくれました。

チャレンジ精神で

昨年度末の9週間、ニュージーランド(NZ)のSt Dominic's Collegeにチーム留学をしました。小学生の頃に海外の学校に通ったことはありましたが、一人で長期のホームステイをするのは初めてです。ホームシックにもなりましたが友達がたくさん

さんで、さまざまな体験ができました。行事のなかでは、ミサが一番印象に残っています。学校に神父さんがきて、みんなで祈りをしたことは、キリスト教の学校ならではの体験でとても新鮮でした。また、NZならではの民族舞踊である「ハカ」も見ました。

ホストファミリーは、私の前にも多くの日本人留学生を受け入れていたので日本のことをよく知っていて、私がやりたい、行ってみたいとお願ひしたことに最大限応えようとしてくれました。NZでは、人前で話す場面が多くあり、自分の意見をはっきり伝えることの大切さを実感しました。ここで挑戦したことは将来必ず役に立つと思うので、今後も英語の勉強を一層頑張りたいと思います。

(中学部3年 北川)



「愉快的仲間たち」と

9週間で得たもの

ニュージーランドのTe Awamutuというところに留学し、高校生活の中で最も有意義な時間を過ごすことができました。両親や友達、ホストファミリーをはじめ、この留学を有意義にしてくれたみんなに感謝しています。

留学生活では多くのことを学ぶことができました。訪れた地域は少し田舎だったので、動物と触れ合う機会が多く、搾乳の手伝いもしました。ホストマザーと互いの国の料理を作ったり、友達とアニメを見たりダンスの練習をしたりしたことは、とてもいい思い出です。もちろん辛いこともありましたが、良い友

達ができ世界観も変わりました。また、自分が今後どのような英語学習をすべきなのかを知ることができました。

留学中は、どんな状況でもできることは何でもやってみようと思ひしていました。言葉の壁はやはり大きいと感じる場面もありましたが、何でもやってみるこの大切さを実感しました。

この経験を将来に生かしたいと思ひます。

(高等部3年 廣田)



ホストマザーとアイス屋さんで

中学部入学式

6月13日(土) 中学部で入学式が行われました。2ヵ月遅れの入学式となりましたが、呼名の際の新生61名の元気な返事と、校長先生の話をまつず眼差しで聞いている姿勢から、中学校生活への意欲や期待が感じられました。規模を縮小した開催でしたが、最後まで緊張感を持って式に臨みました。新入生代表の加藤さんが宣誓したように、これから充実した学校生活を送ってくれることを期待します。

(片山)



新生活への期待にあふれた宣誓

小学部

できるだけのことを子どもたちのために、第64回卒業式

3月16日は、第64回卒業式でした。63名の6年生が立派に卒業していきました。

新型コロナウイルス感染拡大による臨時休校期間中であり、卒業式に在校生が参加できないという状況でしたが、少しでも温かく思い出に残る卒業式にしたいと考えて、計画しました。

各家庭2名の保護者の参加ができるように座席間をゆつたりとすること、風通しが良く暖かい会場にするために、中学部・高等部の文化ホールをお借りすること、在校生の思いが伝わるように、メッセージカードを玄関に掲出すること、教室前の廊下飾りや証書授与の際の卒業生のプロフィール紹介も教員によって、従来通りすることなどを考えて準備しました。

また、縦割りチームの在校生が、「6年生を送る会」で渡すことのできなかつたビデオメッセージ付きのプレゼントも完成させて、卒業式を迎えました。

6年生にとっては、予行練習ができない一発本番の卒業式となりましたが、しっかりと卒業証書を受け取り、校長先生と握手をしていました。最後は、ピアノの演奏と教員有志による

リコーダー演奏で卒業生が退場していきました。

6年生の保護者から「心温まる素敵な卒業式をありがとうございます。」と感想をいただきました。

(澄井)



卒業式の様子

ようやく迎えた第70回入学式

新型コロナウイルス感染拡大による長期の臨時休校期間が5月31日に終了し、迎えた6月6日(土)にようやく入学式を行うことができました。

これまで1年生は、4月10日を「入学の日」として、学級を4分割にした少人数での担任との顔合わせをし、6月までは、1年生でありながら、オンライン授業をうけ、学校再開後も学級を2分割しての少人数での授業を進めてきました。ですから、1年生全員がそろったのは、この入学式が初めてでした。

在校生は、1年生と兄弟関係になっていく児童のみが参加、保護者は2名までの限定的な参加としての入学式でしたが、温かい雰囲気の中、入学式をおこなうことができました。全員マスク着用での入学式で児童の笑顔を感じることがなかなかできませんでした。1年生全員が出席しての入学式となったことは、とても嬉しいことでした。

例年ですと、6年生に手をひかれて、名前を呼ばれて返事をする1年生ですが、今年は、自分で起立をして返事をします。緊張感は、かなりのものだったと思います。

今年の1年生は、しっかりと手をあげて、大きな声で返事ができました。素晴らしい頑張りでした。

(澄井)



入学式の様子

認定こども園 幼稚園部

恵まれた環境で元気いっぱい！

卒園や進級、入園に向けての準備に取り組んでいた矢先、新型コロナウイルスの影響を受け、予定していた全ての行事が時間短縮やキャンセルとなり例年とは全く違う年度はじめてとなりました。

6月に入り、自粛保育が緩和され幼稚園部には再び子どもたちの元気いっぱいの声が響き渡っています。天気の良い日は澄みきった青空の下、キラキラの笑顔と汗を光らせながら広い園庭を思いきり走る子どもたちの姿もみられます。「せーせい！みて！みて！」「いいにおい」と、オレンジ色に色づいたビワや夏みかん、梅やブドウ、桑の実など果実の成長を楽しみにしている子どもたちもいます。

「密」を避けるためにグループに分かれての活動も行っています。「てをあらおう！」と声を掛け合い積極的に手洗いをする習慣も身につけています。幼稚園部の恵まれた環境でのびのびと過ごす子どもたちの力強いパワーを嬉しく思うと同時に、一日も早い新型コロナウイルスの収束を願うばかりです。

(小橋)



幼稚園部に実る果実



カフェ

『旬菓処・菓 KONOMI』開店

村西 千明

(平成5年・学芸学部食物学科食物学専攻卒)



相模女子大学食物学科を卒業後、ホテルやパティスリー、料理教室助手等で経験を積み、カフェなどへの菓子の卸製造を始め、昨年2月、念願のイトインのデザート店をオープンしました。

創業にあたり富山県主催の「とやま未来起業塾」に入塾し、独創的な商品やサービスの開発を学びました。

- ・塾頭からは「角栄流人脈の作り方10カ条」。
- ・財務講座では、資金繰り表の活用や資金調達の仕方、金融機関との付き合い方等学び、「腹を割って素直に相談すること」「借入できたら終わりではなくスタートであること」。
- ・発想転換など視野を広げ、人の気持ちを汲む・必要とされる事業の展開。
- ・元アナウンサーの方からは、コミュニケーションスキルの磨き方のほか、「店、スタッフの清潔感・雰囲気など第一印象が大切。いつも相手より先に言葉をかける。気持ち良いあいさつシャワーをかけ続ける。気持ちを伝えるには言葉だけではなく体で伝える。モチベーションアップのために、体のケアと心のケアを忘れない」など。

私は、お店に併設した果樹園と貸農園の事業計画を立てました。私の住む地域では高齢化が進み農地がどんどん売却されています。我が家も同様に農地の管理が難しくなってきました。祖父母が残してくれた土地を生かしていきたいと考え、一部を果樹園と貸農園にすることを考えました。一昨年より「農業サポーター養成講座」において果樹の栽培を学んでいます。

果樹園では、以前からあった柿・梅・いちじく他に、新たにリンゴ・ブルーベリー・マルベリー・ブルーベリー・みかんの栽培を始めました。

収穫物は菓子に利用するほか、ジャムやドリンクの製造、またドライフルーツにも挑戦しています。

子供達には収穫を楽しんでもらうイベントを試み、アクティブシニアの方には貸農園を提供し楽しんでもらえるよう計画をしています。

開店して一年たちますが、古い土蔵を改装した店舗と心癒される薪ストーブの炎、まだまだ少ないですが果樹園で採れる新鮮な果物を使ったデザートやドリンクで地域の皆さんに喜んでもらえる店づくりを目指しています。

富山にいらした時にはぜひ一休みにお立ち寄りください。

2019年度マーガレット募金決算報告

自2019年4月1日 至2020年3月31日

収入の部		
募金内容	件数	金額
学習活動支援	252	2,043,120円
キャンパス整備	102	1,833,190円
教育・研究活動支援	39	1,563,344円
さがっばジョーの活動支援	17	55,000円
指定なし	22	3,473,584円
計	633	8,968,238円
前年度繰越金	-	41,787,131円
合計	-	50,755,369円

支出の部	
募金内容	金額
学習活動支援	1,613,428円
キャンパス整備	157,680円
教育・研究活動支援	547,200円
被災学生授業料等支援	735,000円
計	3,053,308円
翌年度繰越金	47,702,061円
合計	50,755,369円

■活動内容

- 6月 「学習活動支援事業」募集（応募10件 採択9件）
「キャンパス整備事業」募集（応募0件 採択0件）
「教育・研究活動支援事業」募集（応募2件 採択2件）
- 12月 「学習活動支援事業」募集（応募4件 採択3件）
「キャンパス整備事業」募集（応募2件 採択1件）
「教育・研究活動支援事業」募集（応募1件 採択1件）



おりひめ祭

シナリズムワールド
アカデミーエンパワメント
プログラム

本宮・マーガレットカフェ

■寄付者ご芳名（敬称略、五十音順）※ 氏名等の公表についてご許可をいただいた方のみ掲載しております。

個人（計171名、うち匿名希望56名、未記入11名）

青田 明子	青山 紀美代	青柳 由起	赤司 孝子	有田 雅一	五十嵐 絵理子	五十嵐 まゆみ	池尾 真実子	池下 花恵
井坂 聡	石塚 けい子	泉 邦寿	板垣 玲子	稲毛 義則	稲田 深智子	井上 恵子	奥村 裕司	岩本 明子
岩本 彩美	梅林 博人	大竹 紀子	岡部 とし子	大塚 光子	大橋 敏子	奥貫 妃文	菊地 ゆき子	岩本 浩司
風間 誠史	片桐 周	金井 美恵子	金森 剛	上條 美和子	河内 りえ	川上 文彦	小南 洋介	木根 由美
国吉 佐和子	倉持 洋子	小泉 京美	古谷 みなみ	児玉 小百合	後藤 和宏	小松崎 正一	小南 洋介	齋藤 淳志
齋藤 莉佳子	佐々木 勝洋	佐藤 宏子	佐藤 舞	佐光 裕子	澤藤 桂	庄司 フミ	鈴木 千晴	澄井 俊哉
関水 京子	高柳 誠	竹下 昌之	武田 早苗	竹林 涼	田中 百子	谷 裕至	谷崎 昭男	澄井 俊哉
堤 ちはる	寺前 真紀	東郷 孝志	富樫 慎治	永井 敏雄	中島 和彦	中野 沙織	中野 チナミ	中野 千葉
仲野 寛	中村 ジェニス	中村 真理	西澤 陽子	西本 千春	西山 由江	野谷 卓史	長谷川 素美	中野 紀子
原野 聡美	速水 俊裕	平井 昭彦	藤田 絹子	星 まりあ	前原 祥子	松浦 ふみ代	勝之 龍一郎	原 龍一郎
三井 葵	本橋 明彦	森井 千代美	森田 晃一	森田 直美	前原 祥子	松浦 芳枝	松草 勝之	水上 由紀
山成 眞子	湧口 清隆	吉田 孝彦	吉野 陽子	渡邊 雅史	森平 直子	森屋 芳枝	柳沢 香絵	山口 昌彦

法人および団体（計6件、うち匿名希望0件、未記入4件）

株式会社ブライトネス 相模女子大学同窓会(翠葉会)和歌山支部会

ご寄付のお願いとお申込方法について

「マーガレット募金」を以下のとおり実施させていただいております。
ご支援いただきました皆様に対し、心より御礼申し上げます。
今後ともご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。
マーガレット募金委員会委員長 竹下 昌之

	2020年3月末現在	2020年5月末現在
マーガレット募金額	47,702,061円	48,646,531円

マーガレット募金

本学園の継続的な発展を目的とし、平成20年度に開設いたしました。

用途について、「学習活動支援」「キャンパス整備」「教育・研究活動支援」よりご支援先を指定いただくことができ、また、「目的を指定しないご寄付」もお受けしております。

この中でも「学習活動支援」については、「大学・短期大学部」「中学部・高等部」「小学部」「幼稚部」と支援対象をより細かく指定することができます。

皆様からいただきましたご支援は、ご指定の使い道に従って有効に活用させていただいております。

募金内容

お申込方法 (個人の場合)

- ① お振込（郵便局または銀行窓口） ② 郵送（現金書留）またはご持参 ③ 自動振替での継続
詳細につきましては、大学ホームページ(<https://www.sagami-wu.ac.jp/>)をご覧ください。下記事務局までお問い合わせください。

マーガレット募金 お問合せ先 学校法人相模女子大学 学園事務部 経理課
〒252-0383 神奈川県相模原市南区文京2-1-1 TEL:042-813-5030 FAX:042-749-6500 E-mail:bokin@mail2.sagami-wu.ac.jp

●その他奨学寄付金等のご寄付に関するお問合せ先
相模女子大学・相模女子大学短期大学部 大学事務部 学術研究支援課 TEL:042-747-9570 FAX:042-743-4916